



## 「情報モラル教育」について

社会のデジタル化が急速に進む中、子どもたちは家庭・学校を問わずインターネットに触れる機会が大幅に増えています。オンライン上では、地域を超えて匿名性の高い空間で瞬時につながり、便利さと同時に、誤情報の拡散やネットいじめ、不適切な情報発信などの危険にもさらされています。

このような環境に生きる子どもたちが安全にデジタル社会を歩むためには、「日常のモラルに加えて、情報モラル」さらには社会に参加する態度と責任を重視し、デジタル・リテラシー（デジタルリテラシー）の視点が不可欠です。本市では、これらを背景を踏まえ、「情報モラル教育」について下記ののとおり概要を紹介します。

※詳細については、那覇市立教育研究所 所報 からご参照ください。

## 「情報モラル教育」について

情報モラルとは、情報社会において適切に行動するための考え方や態度のことを指します。インターネットやデジタル機器が子どもの生活に深く根付く現代において、情報モラルは「守るべきルール」だけでなく、子ども自身が自分や他者の尊厳を大切にし、よりよい社会を築くために必要な力へと位置づけられています。

本市の情報モラル教育は、「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の2領域で構成し、①情報社会の倫理 ②法の理解と遵守 ③安全への知恵 ④情報セキュリティ ⑤公共的なネットワーク社会の構築の5分野を体系的に指導することを基本としています。これらの分野は、単なる知識習得にとどまらず、日常の授業や学級活動の中で「どう考え、どう行動するか」を育てることを目的としています。

特に、情報発信の責任、著作権・肖像権の理解、誤情報への対応、健康と安全を守るためのデジタルとの付き合い方などは、児童生徒が日々直面する場面と深く関わっています。また、デジタル技術を活用して社会に参加し、相手を尊重しながら責任ある行動をとる力を育成するデジタル・シティズンシップ教育は、情報モラル教育の延長ではなく、共に推進すべき学びです。

学校での情報モラル教育は、特別な時間に限定されるものではなく、国語・社会・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など、多様な場面の中で、学びと生活を結びながら行うことで、子どもたちの行動として定着しやすくなります。

本市では、全ての教育活動を通して一貫性ある指導を重視し、体系的な育成と日常的な実践を両立させた教育の充実をめざします。

## 2 情報モラル教育をどのように進めるか

(1) 子どもの実態把握  
ICT機器の利用状況やSNSの使用実態は毎年変化しています。昨年度と同じ状況とは限らないため、生活実態調査やアンケート等を通して実態を定期的に把握し、指導の方向性を明確にすることが重要です。

(2) 年間指導計画の作成  
情報モラルに関する内容は、各教科や道徳・総合的な学習の時間・特別活動などの、多様な教科領域と関連しています。学習内容のどの部分で扱うかを整理し、年間指導計画に計画的に位置付けることで、体系的な指導が可能となります。

## (3) 授業の中の工夫

「ICT」を活用する授業の場面では、「意識づけ」の声かけを行うことが効果的です。例として「インターネットで調べるとき、どんな点に気を付けると安全かな？」または「写真撮影や資料作成の場面では、著作権や個人情報扱いを具体的に示すことで、行動に結びつける学びとなります。

(4) 指導後の評価と振り返り  
活動の振り返りでも、「気を付けた点」「よりよくできる点」を言語化させることで思考が深まり、行動改善につながります。〇×形式のテストではなく、考え方や判断を問う形式の評価が有効です。

(5) デジタル・シティズンシップの視点で重視する行動を学ばせるため、オンライン上の言葉遣い、情報の選択と活用、発信内容の影響など、日常の生活に直結するテーマを扱うことが重要です。

## 3 デジタル・シティズンシップ教育を効果的に取り入れる工夫

(1) 授業導入の意識づけ  
タブレット使用前に問いかけを行うことで、児童生徒がデジタル社会を意識する習慣を育てます。例として「写真を撮るとき、どんなことに気を付けよう？」といった小さな対話の積み重ねが、日常的な意識づけにつながります。

(2) 教科・社会・フューチャーズ、情報の信頼性を考える学習  
音楽・総合・動画編集や資料作成を通して著作権・個人情報情報の理解。実際の学習活動に結び付けることで、教室内外の行動につながる実践的な学びとなります。

(3) 学級活動・道徳での対話的な学び  
ICTの投稿を想定したロールプレイやストーリー教材を用いることで、登場人物の気持ちやストーリーの展開など、行動が望ましいかを話し合い、具体的な判断力を養います。

(4) ポートフォリオによるプロセス評価  
調べ学習や表現活動の前・中・後で、「参考にしたサイト」「配慮したこと」を記録させることで、自らの行動を振り返り、よりよい使い方を考える習慣づくりにつながります。

(5) 家庭・地域との連携  
家庭でのデバイス利用ルールづくりを話し合う活動や、図書館・警察（ICJ）関連機関と連携した講座の実施など、学校外の環境とつながる活動が学びを深めます。

## 4 教育研究所としての支援

本市教育研究所では、研修会の実施、教材提供、実践共有の場づくりなどを通して、各校の情報モラル教育およびデジタル・シティズンシップ教育の充実を継続的に支援してまいります。子どもたちが安全にデジタル社会を生き抜き、主体的に社会へ参加できるよう、今後もご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「那覇市 ICT 情報教育推進部会実践事例サイト」の紹介  
那覇市 ICT 情報教育推進部会にて実践したタブレット端末等の ICT を活用した授業実践例の提供やその他、情報教育に関する資料のリンクを紹介しています。



情報モラル教育に関する内容も紹介しています。どうぞ、この機会にご覧いただければ幸いです。



## 令和7年度 第125期教育研究員

12/11(木)	【検証保育】古堅貴子研究員<保育>
12/12(金)	【検証授業】砂川祥子研究員<外国語科>
12/16(火)	【検証授業】與那城武一研究員<自立活動>



指導案検討会

## ☆☆☆ 各種研修・講座等 ☆☆☆



11/20第12回初任研代表授業(仲井真小・金城小・天久小・鏡原中・小禄中)



11/26第9回中堅教諭等資質向上研修

## ◆◆◆新着図書(12月)のお知らせ◆◆◆

- 『「常識」を手放したら、保育が変わった』 有松徹
- 『学校はここまで変えられる!』 平川理恵
- 『いい授業の条件』 飯村友和
- 『子どもは罰から学ばない』 ボール・ディックス
- 『野中信行最終講義』 野中信行
- 『きこえにくさのある児童生徒への英語指導』 河合裕美
- 『[イラスト図解] 教師1年目から使える! 英語授業スキル』 増淵真紀子
- 『トラウマセンシティブスクール』 岩切昌宏
- 『学校図書館を活用した楽しい読書ワーク』 木下通子
- 『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と架け橋プログラム』 神長美津子
- 『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のためのサポートマガジン みるみる』 文部科学省

☆こちらのQRコードから研究所の新着案内を閲覧できます

